

方策1 区民参加と協働の区政に取り組みます

行政需要が多様化し、公共サービスの範囲や内容が拡大しています。それに伴って、担い手も多様化しています。練馬区の未来は、区民、地域活動団体、事業者など区で活動する方々と区役所が望ましい姿を求めて、ともに力を出し合い、つくりあげるものです。

地域には、子育てや高齢者、障害者の介護支援、地域の居場所づくりなど様々な分野で自主的に活動し、住みやすいまちにしようと頑張っている区民が数多くいます。こうした地域に根差した自発的な活動が、地域のいたる所で、より活発かつ自由に行われるよう、これまで以上に積極的に区民参加と協働を進めます。

意欲ある区民の活動を側面から支援するのが区の役割です。活動の自主性・主体性を尊重しつつ、区民や団体が必要とする支援を行い、活躍しやすい環境を整えます。これから地域のために活動したいという区民の意欲やパワー、地域社会を良くするための区民の気づきが活かせるよう、一歩踏み出すきっかけづくりをします。

取組 1 区民と区が力を合わせ安心して暮らせる地域をつくります

区役所をあげて区民参加と協働を積極的に進める体制を整え、地域で行われる自発的な活動の自主性を尊重しながら、団体同士のつながりづくりや区の取組との連携などを促進します。

区民の活動と連携して防災や防犯、防火の体制を強化します

首都直下地震の発生が切迫しているなか、平成28年熊本地震は、自分の命は自分で守り、近所の助け合いで地域を守ることがいかに重要かを示しています。

防災学習センターを拠点として、幅広い世代が防災について学べる機会を提供し、区民一人ひとりの防災意識を高め、区民防災組織や災害ボランティアなど地域での活動につなげます。

日常的な見守りを通じて災害時の協力関係が強化されるよう、区民、地域団体、介護事業者などとの連携を進めます。

「地域の安全は地域で協力して守る」という考え方に基づき、町会自治会やPTAなどの地域団体が行う防犯、防火活動のネットワークづくりを支援します。

区民と区の密接な協働により地域福祉を充実します

子育て家庭や高齢者、障害者の支援など地域の課題に取り組んでいる区民が、より積極的に活動できるよう支援します。高齢者をはじめとした地域住民の相談と交流の場「街かどケアカフェ」など、区民が気軽に集い、交流できる拠点を整備します。こうした場として、平成28年度末に廃止する出張所の跡施設の活用を検討します。

また、体力測定会にあわせて高齢者と地域活動団体のマッチングを行う「はつらつシニアクラブ」や、地域福祉団体が運営する「相談情報ひろば」などを通じて、区民が積極的に活動できる場を拡充します。

区民の力で地域を発展させる「ねりまビッグバン」を広げます

「ねりまビッグバン」は、まちを元気にするアイデアを区民が持ち寄り、参加者同士でアイデアを具体化する取組です。これまでも、「認知症のある方も安心して住み続けられるまちづくり」、「身近な地域で活動する団体の見本市」などのアイデアが、話し合いの中から生まれ、動き始めています。

今後は順次、各地域で展開し、区民の力で地域を発展させる活動を広げていきます。

地域活動に参加する「きっかけ」をつくります

「練馬En(エン)カレッジ」では、「みどりの風吹くまちに あなたの<力>を」をテーマに、地域活動へのきっかけづくりや福祉、防災など分野ごとの人材育成事業を実施しています。すでに多くの方がここを足掛かりに地域活動に踏み出しています。

この機能をさらに充実するため、開講の場を区内各地の区立施設に拡大し、カリキュラムを多様化して、区民の選択の幅を広げます。

組織の縦割りを超えて協働を推進する体制をつくります

区民参加と協働を推進する専管組織「協働推進課」を新設しました。全庁のコーディネーター役として、組織の枠を超え区民参加と協働を推進します。

区民協働交流センターの相談機能を充実し、地域で活動する団体などからの相談を受け止めるワンストップ窓口とします。地域活動やボランティア、事業者の社会貢献活動に関する相談、活動に役立つ情報の受発信など、地域活動や協働に関することなら分野を問わず、専門的な相談にも対応できるようにします。

区民事務所等に配置した地域支援推進員は、地域に出向いて様々な地域活動の実情を伺いながら、必要に応じて区民協働交流センターや関係部署につなぐなど、区民の皆さんに身近なところでフットワーク良く支援します。

区内事業者が一層活躍できる環境づくりを進めます

公共サービスの担い手として区内事業者がより参入しやすくなるよう、情報提供や相談を充実するとともに、事業者同士の連携、事業手法のスキルアップなどを支援します。

取組2 区民と区、区民同士がつながる情報受発信の仕組みをつくります

区民と区との双方向のやり取りを充実し、区民がより区政に参加したくなるよう環境を整えます。区政や練馬区に関する様々な情報を、区民の視点から積極的に分かりやすく発信し、区政への関心を高めます。

区民の“気づき”を区政に活かす「ねりまちレポーター」を創設します
区民による「ねりまちレポーター」が、道路や公園遊具の破損などに気づいた際にスマートフォンなどで撮影して投稿し、区は迅速に改善するシステムをつくります。改善結果は専用ホームページで公開します。

区民が主役の広報をさらに展開します

だれもがワクワクしながら区の広報に参加できる機会を増やすことが重要です。引き続き「よりどりみどり練馬」のキャンペーンを多くの区民とともに展開していきます。

フェイスブックを活用した練馬の魅力紹介サイト「よりどりみどり練馬」をより充実し、サポーターがより参加しやすい環境を整えます。

区民が横断的につながり、知りたい情報を入手しやすい仕組みをつくります
区内の地域活動や生涯学習、文化芸術に関する事業、施設などの情報を集約し、区民が「活動したい」「学びたい」ときに必要な情報を入手できる生涯学習・文化芸術サイトを構築します。区民がこのサイトを活用して活動の情報を発信し、活動が横断的につながることができるようにします。

また、高齢者や障害のある方などが、医療や介護に関する情報をまとめて見られる医療介護情報サイトも開設します。

区ホームページは全面的に見直し、知りたい情報がすぐに分かるように、より検索しやすく使い勝手の良いホームページにします。サイト内のアンケート機能も活用し、継続的に改善していきます。

発行物等をより区民に役立つものにレベルアップします

区の様々な刊行物を整理・統合し、「手に取りたくなる」「知りたい情報を分かりやすくコンパクトに掲載」など、区民の視点で内容をレベルアップします。

貴重な歴史的資料は順次デジタル化してホームページで公開するなど、区政資料の提供をよりスムーズに行える体制を整えます。

取組3 区民とともに練馬のみどりを守り育てます

練馬区の最大の魅力である「みどりに恵まれた、利便性の高い住宅都市」としての個性をさらに高め、将来の世代に引き継ぐために、みどりを愛し守り育てる取組を区民とともに進めます。

多くの区民が練馬のみどりに強い愛着を持っている一方、落ち葉や日照を妨げるなどの課題もあります。また、みどりの多くを占める民有地のみどりを個人で守っていくには限界があります。地域活動団体、事業者などの理解と協力を得ながら、区民とともにみどりを積極的に増やします。

公園や民有地のみどりを活かした、みどりのネットワークを形成し、みどりの豊かさを実感できるまちづくりを進めます。

みどりを守り育てるための方策を区民参加で考え実行します

区には公園や屋敷林、街路樹、農地など、様々なみどりがあります。こうした多様なみどりを、それぞれの特性を活かしながら守り育てていくには、適切な管理が必要です。

区民や地域活動団体、事業者とともに考える区民会議を設置し、具体的な行動につなげます。また、区のみどりの現状や、管理に要する経費を分かりやすく伝える資料を作成します。

みどりを地域で守り育てる仕組みを拡充します

地域のみどりをだれよりも愛しているのは地域の住民です。みどりを適切に管理するためには、多くの住民が参加しやすい仕組みをつくる必要があります。

すでに一部の公園や憩いの森の管理は地域団体やボランティアが担っていますが、さらに拡大します。また、地域のみどりを守り育てるためには、自ら落ち葉を処理することが困難な高齢者等を支援することが必要です。高齢者等とボランティアをマッチングするなど、新しい仕組みをつくれます。

みどりの管理の仕方を転換します

すでに公園や街路樹の剪定、遊具の更新などを行う際は、事前に地域にお知らせし、意見を伺ったうえで対応する取組を開始しています。

樹木の剪定は、自然を生かしみどりを増やす見地から、きめ細かく行います。「ねりまちレポーター」からの情報をきめ細かい管理に活用します。

練馬の都市農業を区民とともに支え発展させます

農業は、練馬区のみどりの重要な要素として欠くことのできないものです。

高齢化や後継者不足等により支援を必要とする農業者が増加しているなか、一方では、農業にかかわりたい区民が増えています。区の都市農業を支え、発展させていけるように、「練馬区農の学校」において、農の理解者、支援者となる農サポーターを育成し、農業者とのマッチングを進めていきます。

また、新鮮野菜の収穫や果樹の摘み取りなどを体験する機会や、農業者と区民がふれあう「ねりマルシェ」などを拡充し、区民の農への理解と関心を深めます。

地域ぐるみでみどりの街並みをつくります

区はこれまで、沿道での生け垣づくり、花壇づくりやみどりのカーテンの育成など緑化を進める区民に対し、経費等の支援を実施してきました。

今後はさらに、地域団体や区民のもとへみどりのアドバイザーを派遣し、緑化の相談、情報提供や提案を行い、個々の緑化への取組が沿道や街区に広がるよう支援します。

取組4 「練馬ならではの」の都市文化を楽しめるまちにします

区には、みどり豊かな環境のなかに美術館やホール、芸術系の大学があり、様々な質の高い文化活動を展開している著名人が居住しています。また、区民の多彩な文化活動も活発に行われています。

質の高いプロフェッショナルな文化芸術と、区民自らが参加する文化活動が、ともに楽しめる、そうした練馬ならではの都市文化を花開かせていきます。

質の高い文化芸術を身近で楽しむことができるようにします

名誉区民である狂言師の野村万作氏や能楽師の梅若万三郎氏の協力を得て、日本を代表する一流の出演者が揃う「みどりの風 練馬薪能」を、石神井松の風文化公園を舞台に開催します。

練馬区文化振興協会には、初の民間理事長としてヴァイオリニストの大谷康子さんを迎えました。第一線で活躍する芸術家による公演や全国レベルの音楽コンクールを開催します。

区内外から多くの方が来館している美術館は、民間出身の館長の下、引き続き、多彩でユニークな活動を展開します。

区民が文化活動に参加して楽しめるようにします

地域で引き継がれてきた囃子連や文化祭、音楽祭など、区民の多彩な文化活動を支援し、さらなる活性化を図ります。活動を紹介するポータルサイトを新たに作成し、情報発信を充実します。

また、区には、庚申塔や富士塚などの歴史文化遺産、光が丘美術館、ちひろ美術館東京や唐澤博物館などの民間文化施設も数多くあります。人気の高い和菓子店や洋菓子店、23区初のワイナリーなど食文化資源にも恵まれています。これらのスポットを巡る散策やポタリングのコースを区民とともに作り出します。

文化芸術活動のための舞台を整備し、担い手を育成します

美術館は、新たな活動にふさわしい施設とするため、大胆な発想でリニューアルし、内容を充実します。

美術館をはじめ、練馬文化センター、大泉学園ゆめりあホール、石神井公園ふるさと文化館・分室を、練馬区文化振興協会が一体的に運営する体制を整えました。施設連携イベントやまちなかコンサート、区民手づくりの舞台公演「ねりパフォ」の開催など、区民と協働して、文化芸術活動をまちなかに広げていきます。

若手芸術家を育てるため、区内大学等と連携し、音楽家の登竜門となる新人演奏会を充実するとともに、創作活動の場の確保を支援します。

取組 5 区民参加で独立70周年を祝い未来へつなぎます

平成29年(2017年)に迎える練馬区独立70周年を区民全体で祝い、夢のあるまちづくりへの契機とするため、広範な区民や事業者の参加により、多彩な記念事業を企画・実施します。さらに、平成32年に開催される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて機運を高め、練馬区の魅力を国内外に発信します。

区民参加で未来につながる記念事業を実施します

多くの区民が楽しく参加でき、未来の練馬につながる契機となるよう、自由な発想やアイデアを活かして区民が自ら企画し実行する独立70周年記念事業を募集し、区民が主体となって実施します。

区民が見つけた練馬の魅力を巡るポタリングコースをつくります

70周年にあわせて、区民や地域団体、「よりどりみどり練馬」の区民PRサポーターなどが発掘した地域資源を巡るポタリングのコースをつくります。

練馬区の都市農業の魅力を発信します

都市農業は、今や豊かな都市生活に欠かせないものとなっています。練馬区の農業は、日本の都市農業を代表する存在です。

その意義と魅力を練馬から世界に向けてアピールします。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて国際交流の機運が高まる時期をとらえて、世界都市農業サミットの開催を目指します。